

「21 世紀環境立国戦略」の検討について

1. 検討の背景

今日私たちは地球温暖化問題をはじめ様々の環境問題を抱えており、私たちの生存を支える自然環境全体について、IPCC 第 4 次評価報告書等が示す地球温暖化による影響等を含め、人間の活動による劣化が一層懸念される状況となっている。また、地球の有するエネルギー資源、水資源、生物資源をはじめとする限られた資源の大量な採取を通じて、将来の人間活動の基盤が失われ、人間社会の持続性にも影響が及ぶ可能性が生じている。

このほかにも、廃棄物・リサイクル問題や生物多様性の保全、水・大気・土壌環境や森林の保全など、環境問題に関しては、国内外にわたり様々な課題が山積している状況にある。

また、本年 6 月の G 8 サミットに向けて、G 8 環境大臣会合が 3 月に開催される。この環境大臣会合においては、ホスト国であるドイツの強い意向により、気候変動問題及び生物多様性問題を人類の生存基盤に対する大きな脅威であるとして二つの主要議題として取り上げることとしている。2008 年に我が国で開催される予定の G 8 サミットにおいても、環境問題への対応に大きな関心が集まるものと考えられ、今後の世界の枠組み作りへ向けた我が国の考えを積極的に表明していくことが一層重要となっている。

こうした状況を踏まえ、去る 1 月 26 日の安倍内閣総理大臣の施政方針演説において「国内外あげて取り組むべき環境政策の方向を明示し、今後の世界の枠組み作りへ我が国として貢献する上での指針として、『21 世紀環境立国戦略』を 6 月までに策定します。」旨盛り込まれたものである。

2. 戦略のねらい

国民各界各層からの期待に応え、今後の世界の枠組み作りへ貢献する「環境立国」の実現に向けた中期的かつ戦略的な今後の環境政策の羅針盤又は海図を明らかにすること。

特に、2008 年に我が国で開催される G 8 サミット等を見据えて、今後の世界の枠組み作りへ我が国として貢献する上での指針を示すものとして内外に発表し、G 8 サミット等の成果への反映を目指すこと。

さらに、本戦略が、国内外における環境保全に向けた各界各層の取組の輪を広げ、力強く後押しするものとなることを期待。

3. 検討に当たっての基本的な視点

特に中期的かつ戦略的に取り組むべき重点事項に絞って環境政策の方向性を明らかにするものとし、世界をリードする環境立国の実現に向けて新機軸となる取組を含め幅広く検討を行うこと。

また、地球温暖化を始めとする環境問題の深刻さにかんがみれば、スピード感を持って取り組むことが重要であり、特に今後1、2年で実施に着手すべき地球温暖化対策等を始めとする重点的な取組について検討を行うこと。

本戦略が、環境的側面、経済的側面、社会的側面の統合的な向上に向けた国内外の動きをさらに推進するものとなるよう検討を行うこと。

4. その他

本戦略については、3月末頃までにおよその骨格を整理し、経済財政諮問会議で「骨太の方針2007」をまとめる流れを踏まえつつ、本年のG8サミット開催前の5月末までにとりまとめを行うこととし、この間適宜、経済財政諮問会議へ報告することを検討（当面のスケジュールについては、別紙参照。）

なお、本戦略については、G8サミット等の国際的な場において広く配布し各国首脳に全文をお読みいただけるようなコンパクトな分量にするとともに、国民一般にも幅広く読まれるようなものを想定し、簡潔かつ力強いメッセージを内外に打ち出すものとする。

(別紙)

中央環境審議会 特別部会
当面の日程(案)

〔 以下の日程は、事務的に想定したものであり、特別部会における今後の議論の状況を踏まえ、変わりうるものである。 〕

[2月～3月]

第1回特別部会 (2月26日(月))

「21世紀環境立国戦略」の検討について
環境問題の状況等 (事務局説明)
今後の検討スケジュール

第2回特別部会 (3月5日の週)

政府における取組の現状と課題 (各府省から説明)
有識者ヒアリング

第3回特別部会 (3月19日の週)

各委員から戦略に盛り込むべき事項について意見提出
これまでの論点の整理 (自由討議)

第4回特別部会 (3月26日の週)

骨子取りまとめ、公表